

辻 章夫先生を偲ぶ

1929年8月愛媛県松山市に生まれる。1953年東京大学医学部薬学科卒業。1955年東京大学大学院化学系薬学専攻修士課程修了(薬学修士)。1955年大日本製薬㈱研究部。1957年厚生省国立衛生試験所医薬品部(厚生技官)。1964年昭和大学薬学部教授(薬品分析化学講座)。1964年薬学博士(東京大学)。1972年米国アインシュタイン医科大学ステロイド研究所へ留学。1989年昭和大学薬学部長(大学理事)。1995年3月昭和大学定年退職。1995年4月昭和大学名誉教授。分析化学編集委員長, *Analytical Sciences* 編集委員, 日本分析化学会理事, 副会長を歴任, 日本分析化学会名誉会員。1982年日本分析化学会学術賞。1994年日本薬学会学術賞。1996年紫綬褒章。2001年勲三等旭日中綬章。



2023年7月15日に本会名誉会員 辻 章夫先生が93才でご逝去されました。ご葬儀はご家族のみにより執り行われました。ここに謹んで哀悼の意をささげると共に、先生のご業績を紹介しつつ生前の様子を偲ばせていただきます。先生は旧制東京高等学校(後に東京大学教養部)を経て東京大学医学部薬学科に進まれ、その後同大学院薬学専攻修士課程で薬剤学の研究をされ、修士号を取得しております。その後、大日本製薬株式会社を経て厚生省国立衛生研究所に厚生技官として入職し、医薬品分析や薬事行政に従事しながら研究として「イオン交換樹脂粒を用いる有機微量点滴分析法」を確立し、1964年に薬学博士(東京大学)を取得しております。同時に同年創設された昭和大学薬学部薬品分析化学の教授に就任されています。分析化学教室での研究は、当時、薬学の分析化学が臨床検査医学の中の臨床化学分析の方向に動きが高まっており、東大薬学部田村善蔵教授(後に昭和大同教室客員教授)を中心とした臨床化学研究会に参画し、研究課題を「生体成分の微量分析法の開発とその臨床への応用」とされました。当初の研究は、創設間もない研究室でもあり分光光度計1台と自動天秤1台の設備で研究には大変苦労されたとお聞きしております。そのなかで、アミノ糖の比色分析法や亜鉛とピリドキサールを用いた高感度な蛍光法によるアミノ酸分析法などを確立しています。その後、より高感度な分析法の開発を目指し、1972年にニューヨークのアインシュタイン医科大学付属ステロイド研究室へ留学され、D. F. Fukushima 博士の下で当時発展し始めていたステロイドのラジオイムノアッセイ(RIA)の技術を学ばれております。帰国後、放射性物質の規制が厳しい日本に適した方法として非放射性イムノアッセイ法の開発を開始し、RIAよりより高感度化する目的で蛍光や化学発光、さらに生物発光反応を酵素活性の検出に用いる酵素イムノアッセイ(EIA)を開発しています。最初のEIA論文は1977年の分析化学に投稿され、「ペルオキシダーゼールミノール発光を用いるコルチゾールの酵素イムノアッセイ」として掲載されました。蛍光法がまだ一般的でない時代、化学発光検出はまだユニークな方法であり、後に90年代に入りホルモンなどの高感度EIA

の主流となったことから、当時としてはかなり先端的な超微量分析と考えられます。その後、血液1滴から分析できる甲状腺刺激ホルモン(TSH)やサイロキシン(T4)、 17α -ヒドロキシプロゲステロンのEIAを開発し、我が国の先天性代謝異常症の新生児マススクリーニング法に適用し、1989年より全国レベルで全出生児に実施されています。先生の業績は1995年の退職時までで、報文185報、総説96報、著書41冊であり、開催学会は第3回生体成分の分析化学シンポジウム(77年)、第29回臨床化学会年会(89年)、第19回日本マススクリーニング学会(91年)、13th International society for Bioluminescence & Chemiluminescence(2004年、横浜)があり、その他、先生が世話人をなされていた生物発光化学発光研究会を数多く主催されておりました。これらの業績により、1982年に日本分析化学会学術賞、1994年に日本薬学会学術賞、1996年に紫綬褒章、2001年に勲三等旭日中綬章を受賞されております。退職後は、生物科学安全研究所の理事として、また公職では薬学教育協議会7代会長として薬学部6年制への移行として長期病院実習・薬局実習の構築に向けて6年間貢献されました。先生のご趣味は、絵画であり、水彩、油絵、墨絵などを手掛けられ、銀座でのグループ展やフランス美術館での展示などに出品されておりました。先生の絵画は趣味の域を超え、画家としてのレベルに達するものでした。先生の分析化学に対する理念は、開発する分析技術は「常に世の中に役立つものを目指す」というものでした。それは、先生が学生時代に参加した東大セツルメント活動に由来するものと思われま。セツルメントは英国の社会学者トインビーにより創設された奉仕を中心とした活動と、先生は良く話されておりました。学生時代のその活動が、生涯を通してのお仕事や研究、そして人へのやさしさ、思いやりのある先生のお人柄につながっているものと思われま。

先生には学部学生時代から公私に亘り長年ご指導をいただき、誠にありがとうございました。深く感謝いたしますと共に、先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

〔昭和大学名誉教授 荒川 秀俊〕